

# 横芝の碑

(その四十七)

## 石合大師開山の碑

このシリーズその三で、四国八十八札所石仏紹介の時、開山第一世吉岡宗隆の碑も建っている、と申上げてあります。最近「開山一世の名は吉岡宗治郎が正しい、」という話をお聞きしましたので、改めて石合山を訪れて見ました。

数年ぶりの石合山は、あの頃より整然としていて、お堂の前に建っている大師様の石像や、その後の開山一世の碑等には何か名刹の風格さえ感じられました。

いま、この石合山は、附近の信仰厚い方々が仕守りしておられるということですが、その総代役をしておられる本間重寿さん(現町収入役さん)をお訪ねして、開山一世のお名前等、石合山に伝わる文書等を見せて戴きながらいろいろとお伺いして見ました。

この石合山は昭和二年に、町原の吉岡宗治郎という人が先に立って開山し、その第一世になられたのです。宗治郎さんはとても信心深い人でした。中でも弘法大師を信ずる心が厚く、この附近の大師霊場は殆んど巡拝され、四国へも何度か巡礼されたりしていました。たまたま茨城県北相馬郡の相馬大

師巡拝中、同行の信者の話に心を打たれ、上総の地に八十八ヶ寺尊像建立を發願し、東奔西走幾歳月自らも資財を寄進、その念願を果し、推されて信者仲間周知の字名宗隆を用いて開山第一世となつた、というものです。

この経緯について吉岡宗治郎さんは、昭和二年三月三十日に挙行された開山式の挨拶の中で、

「人誰カ敬神尊仏ノ心無キ者アラシヤ唯ソノ厚薄浅深ニヨリテ冷熱ノ差アルノミ、今回茲ニ大師尊像ヲ建設スルニ当ルソノ動機ハ相馬講社ニ起因セリ、昨今相馬大師巡拝ノ際飯岡町仲条氏同行セラレ路次ノ談話ニ此ノ霊場ヲ上総ニ奉遷セラレテハ如何、若シ実行セラルトキハ予ニ於テ第十九番尊像一休ハ必ラズ奉納スベシトノ言辭ニ励マサレ帰後平常信仰心厚キ普門品連相謀リ建設ヲ議スルノ余リ安置ノ場所ヲ相談セシ処、大総村坂田区小林藤吉君此ノ拳ヲ聞キ、我が所有石合山林ヲ無料ニテ永久ニ貸与スベシト直チニ快諾セラル、茲ニオイテ議忽チ決シ創設ノ緒ヲ開ケリ、コレ即チ此ノ境内ナリ、然リ而シテ両国新田桜井氏所有ノ

地も稍々加ワリテ是モ亦無料ナリ日ヲ遂イ月ヲ経テ講社員ハ八百余人ノ多キニ上レリ、由ッテ八十八基ノ尊像ハ心悩マサズシテ営マレ、尚コノ御籠堂モ建築セラレタリ、是大師尊ノ御利益ト言フモノノ各信仰家諸君ノ熱誠ナル結晶ノ賜云々」と、この開山は総て大師飯岡の仲条さん、そして信者各位の力による、と力説し、自分は何の苦勞もしなかつた様に述べられています。日を経、月を経て講社員も増えてきた。という辺りに、第一世吉岡さんの苦勞と努力はあつたらしく、開山当時の協

力者らしい、桂兎園宗路という人は「そもそも宗隆氏は老後大師普及を絶叫し、茲に資財を投じ衆生救済の爲石合大師御尊像建立云々」と絶讃しております。

写真は、その碑で、表面中央には、石合山第壹世吉岡宗隆之碑、その脇には、石合山第二世成田山大阪別院主管中僧正青木栄俊敬書と刻まれています。(因みに石合山は八日市場見徳寺の末寺で、第二世青木栄俊僧正は見徳寺の先代の方だということです。)そして裏面には創立委員として、堀越宇之吉、越川子之吉、齋藤儀三郎、山



崎利八、伊藤勝三郎、越川新治郎、上杉巖、斎藤恭助、柳橋治善、井上左市郎、野本平治、木内市五郎、伊藤国蔵、古谷岩太郎、古川半三郎、若梅弥市、若梅喜三郎、若梅忠作、青木健次郎、実川直吉、齋藤宇兵衛、桜井隆、藤沢清重、林すい、綿貫てる、実川マサ、伊藤うめ、平山とく、以上皆さんの名が昭和十六年十二月の建立ということ刻まれています。

(本稿取材に当り、八日市場見徳寺御住職、上町本間重寿氏、町原吉岡常二氏の皆さんに、特に御協力をおねがいいたしました。尚石合山は既に周知の場所なので案内図は省略させていただきます。)

町文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿

手をつなぎ  
築こう非行の  
ない社会

「社会を明るくする運動」横芝町実行委員会